

- 自転車を取り巻く動向 -



1. 今、なぜ自転車なのか？

2

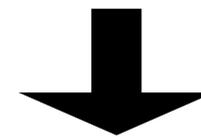
地球環境問題
への対応

(過度なクルマ依存からの脱却)

ライフスタイル
の変化

(健康志向)

自転車関連事故
への対応



今、「自転車」が見直されている

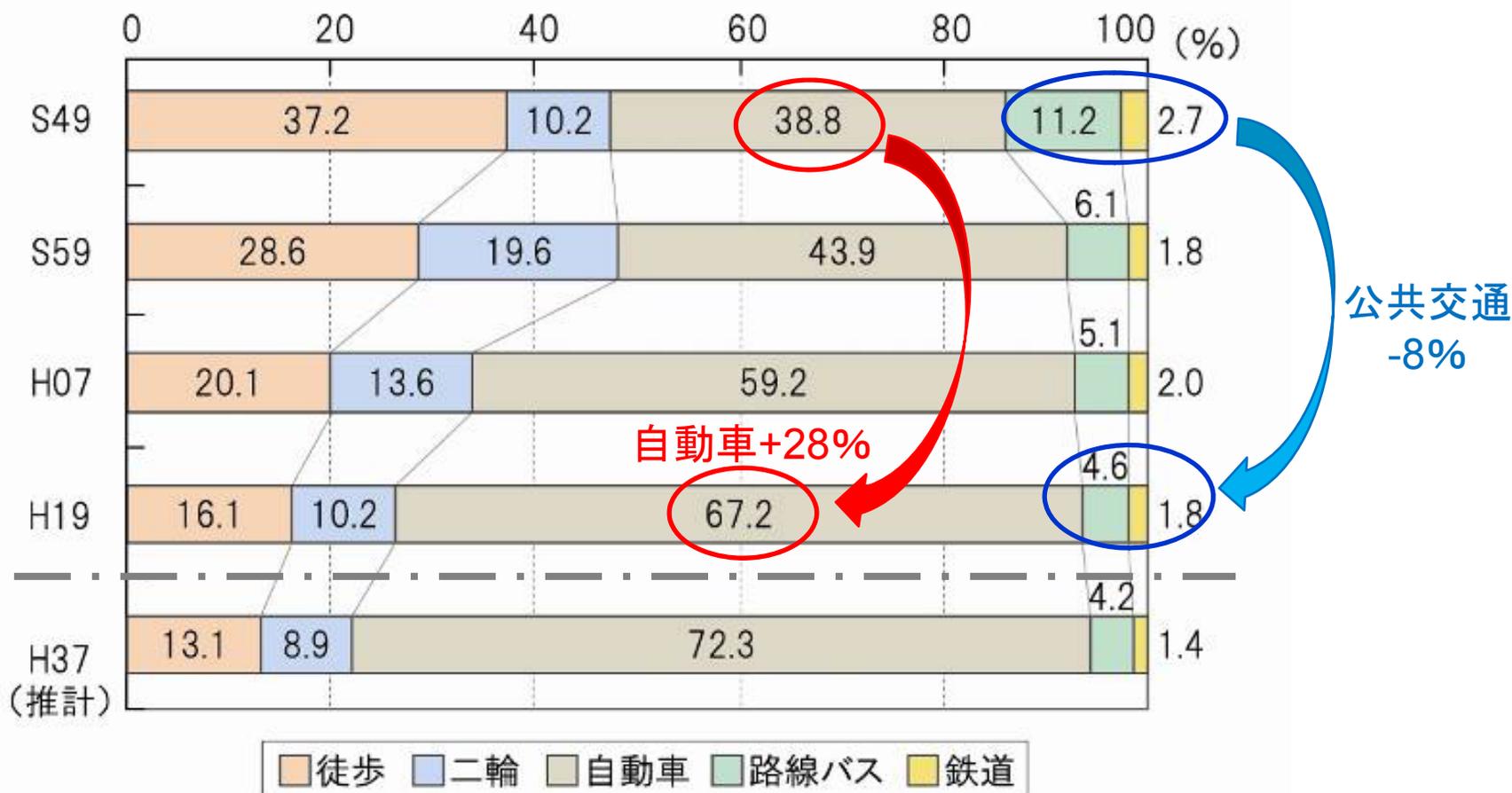
【取り組み】

- 自転車走行空間の整備(国土交通省・警察庁によるモデル地区指定など)
- 自転車関連事故低減に向けた取り組み(ルールやマナーの教育・指導など)
- 個人利用の公共交通としての活用(コミュニティサイクルシステム(CCS))
- 駐輪環境の整備(放置自転車対策、路上駐輪施設の整備) ……など

2. 地球環境問題への対応

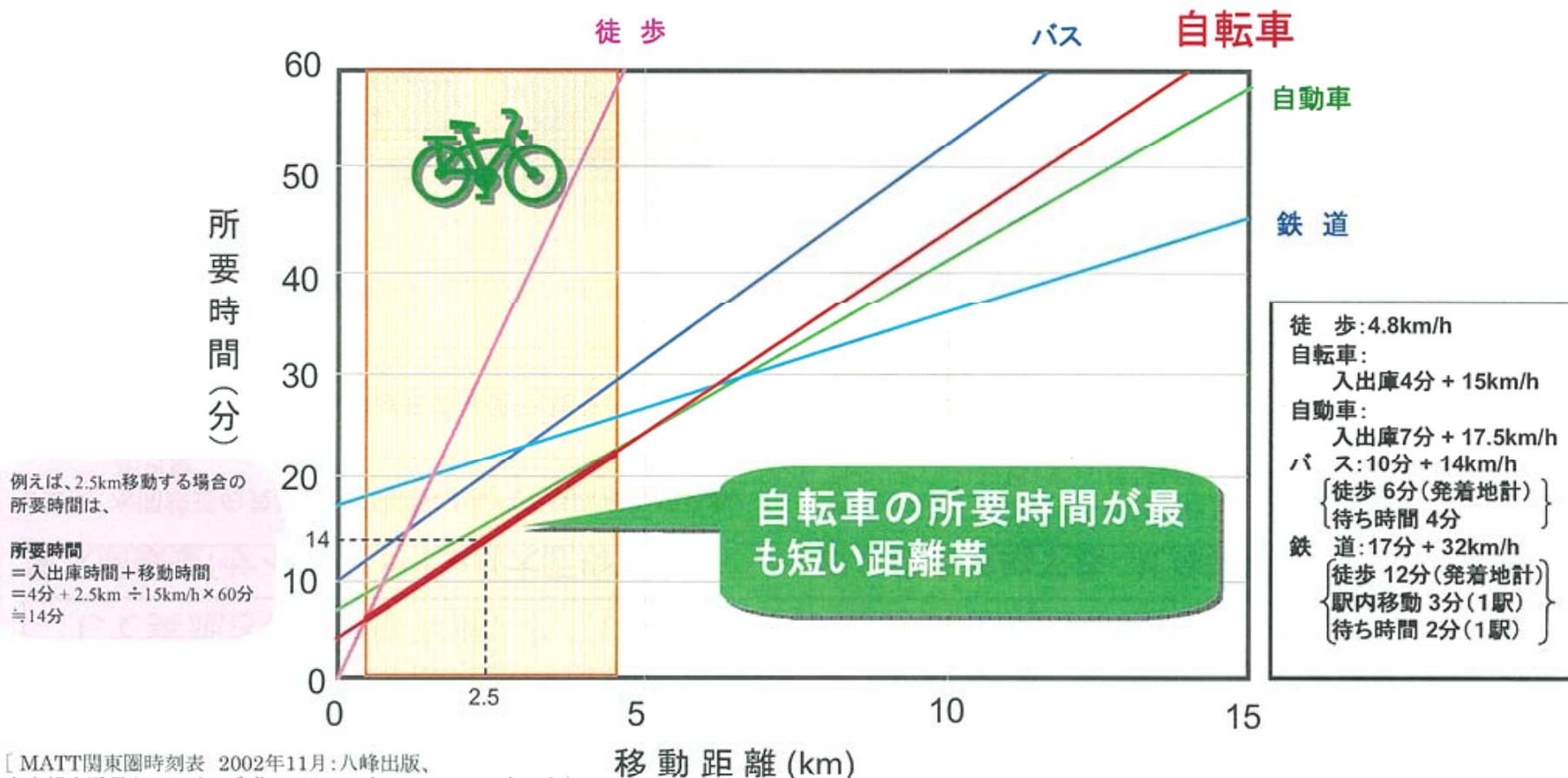
- S49→H19では、自動車利用率が28%増加、公共交通利用率が8%減少。
- 二輪利用者率(自転車・バイク)はS49年時点と同じ。S59年以降減少。
⇒クルマ依存度の高まり ⇒環境負荷が増大 ⇒自転車や公共交通の利用促進へ

●代表交通手段別利用率の推移



2. 地球環境問題への対応

- 5km程度の移動では、自転車は他の交通手段に比べて移動時間が短く効率的。
- 金沢都市圏における自動車の平均トリップ長は約5km(H19PT調査より)。
⇒ 移動距離でみると、多くの自動車利用は、自転車交通で代替できる可能性あり。



[MATT関東圏時刻表 2002年11月:八峰出版、
東京都交通局ホームページ (<http://www.kotsu.metro.tokyo.jp>)
平成7年 大都市交通センサス:財団法人運輸経済研究センター、
平成11年 道路交通センサス:建設省道路局、
自転車駐車場整備マニュアル:建設省都市局 監修、
自転車歩行者通行空間としての自歩道等のサービス水準に関する分析、土木計画学研究・講演集 No.22(2) 1999.10 を基に分析]

資料:国土交通省

■ 自転車ライフの広まり

ロハス(LOHAS:Lifestyles Of Health And Sustainability)

・・・**健康と環境**を志向するライフスタイル(スローライフ、エコなど)

ガソリンの高騰(自転車や公共交通の重要性の高まり)

景気の悪化(エコロジーでエコノミーな自転車利用者の増加)

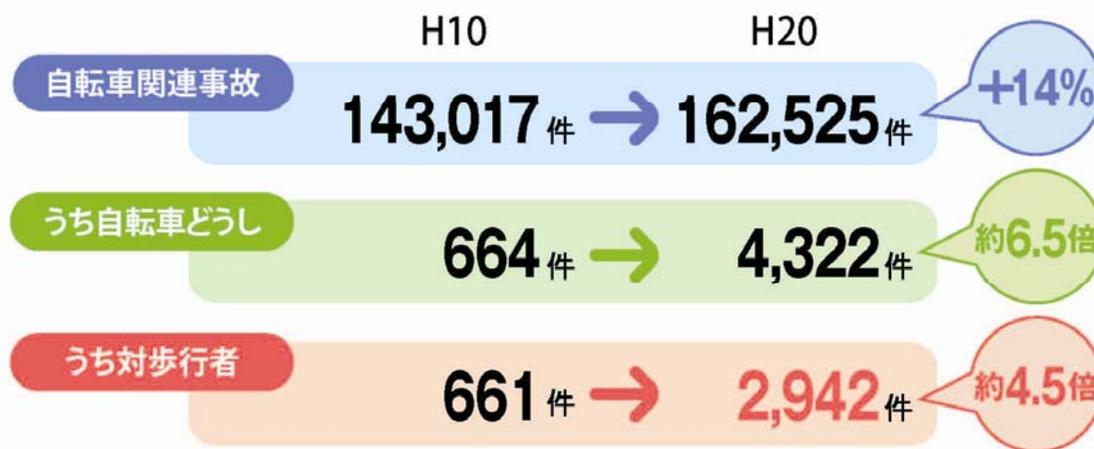
自転車通勤の普及、スポーツタイプの自転車の人気上昇
メタボ対策としての効果、自転車に乗ることが楽しくて快適・・・など

自転車に乗ることの価値が見直されている
(日常生活、観光、レクリエーションなど目的の多様化)

4. 自転車関連事故の状況

- 平成10～20年の間に、全国では自転車関連事故が14%（約2万件）増加。
- うち、自転車どうしの事故が6.5倍、対歩行者の事故が4.5倍に増加。
- 石川県内では、毎年1,000人以上の人々が自転車乗車中の事故に遭遇（自転車関連事故が12%）。

【全国の自転車関連事故件数の推移】



※ 対歩行者の事故件数は、警察に届け出のあったものだけであり、実態はもっと多くの事故が発生しているものと考えられます。

資料：警察庁ホームページ

【石川県内の状態別交通事故件数の経年変化】

	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	平均
自動車乗車中	8,141	8,359	8,874	8,822	8,340	8,046	7,753	8,101	7,533	6,962	6,081	7,910
自動二輪乗車中	324	316	323	329	230	205	226	222	214	210	224	257
原付乗車中	529	527	518	496	415	367	356	314	307	250	226	391
自転車乗車中	1,359	1,406	1,432	1,435	1,396	1,365	1,340	1,298	1,135	1,211	1,171	1,323
歩行中	832	927	892	914	902	889	752	815	732	643	628	811
その他	9	8	11	6	11	12	9	7	8	13	13	10
合計	11,194	11,543	12,050	12,002	11,294	10,884	10,436	10,757	9,929	9,289	8,343	10,702

資料：いしかわの交通統計（石川県警察本部）